



当社陸上部が一年の中で最も重視している第62回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)を迎えました。この大会を迎えるに当たり、各種記録会やロードレース、九州地区予選となる九州実業団毎日駅伝などで選手の体調を仕上げて来ました。

九州実業団毎日駅伝では、1区から1分以上遅れ5位発進する苦しい展開でした。3区高橋尚弥選手が区間2位の快走で順位を4位まで押し上げ、その後はこの順位を死守する走りに留まりました。

この後、ニューイヤー駅伝に向けて熊本甲佐10マイル公認ロードレースで、ほぼ駅伝に近い距離のレースに出場しました。このレースでは、アッパйна テグ選手、高橋尚弥選手、中本健太郎選手、久保田大貴選手、古賀淳紫選手、黒木文太選手、佐護啓輔選手の7名が順調な仕上がりを見せました。中でも、高橋尚弥選手は、安川電機の新記録を達成。佐護啓輔選手も自己新記録を達成しました。

年が明けた元日に本番となるニューイヤー駅伝を迎えました。中盤までを若手選手で固め、後半を勝負強いベテラン選手で勝負するという区間配置での挑戦です。1区古賀淳紫選手は、常に先頭が見えて且つ反応し易い集団の右側10番手付近に位置取りしてレースを進めました。残り1kmで集団が大きく崩れても耐え切り、先頭から15秒差の区間15位で1区の役割を十分に果たしました。2区アッパйна テグ選手は、序盤からスピードを上げ、わずか3kmで9位まで順位を押し上げ、その後も更にスピードアップして、6位でタスキ中継という大きな結果を残しました。スピード区間となる3区では佐護啓輔選手が起用されましたが、他のチームも実力者が揃っており、順位を17位まで落としました。最長区間となる4区には、今やエースとなった高橋尚弥選手が起用され、順位を13位まで押し上げ、その後順位を急浮上させる起爆剤となりました。5区にはベテランの中本健太郎選手が起用されました。向かい風区間であることなどもとせ、入賞圏内の8位が見える9位まで順位を押し上げました。6区にも勝負強いベテランの黒木文太選手を起用して更に順位を8位まで上げました。アンカーの7区には久保田大貴

選手を起用。3人による6位争いまで順位を押し上げましたが、向かい風などがありお互いが牽制。結果、6位争いをするチームが6チームまで膨れ上がり、ラスト勝負で敗れて9位で今大会を終えました。途中大きく順位を落とした中で、ベテラン勢の頑張りで一桁順位を確保したこと、区間順位でも4名の選手が区間1桁の順位を記録するなどの成績を取めました。

今後は、個人レースへと舞台を移していきます。引き続き当社陸上部の応援をよろしくをお願いします。



6区で入賞ラインの8位まで順位を押し上げた黒木文太選手

◆ 17年10月～18年1月の主な戦績

日程	大会名	成績
10月 6日～10日	第72回国民体育大会	大瀬戸 一馬選手 成年男子100m準決勝5位(福岡県代表)
11月 23日	第54回九州実業団毎日駅伝競走大会	チーム14位 ※()内は区間順位 1区:古賀淳紫選手(5位)、2区:アッパйна テグ選手(4位)、3区:高橋尚弥選手(2位)、 4区:高橋達也選手(7位)、5区:中本健太郎選手(9位)、6区:久保田大貴選手(5位)、 7区:黒木文太選手(5位)
12月 3日	第42回熊本甲佐10マイル公認ロードレース	国際競技者の部:アッパйна テグ選手2位 一般競技者の部:高橋尚弥選手6位(自己新記録・安川電機新記録)、 中本健太郎選手28位、久保田大貴選手45位、古賀淳紫選手54位、黒木文太選手56位、 佐護啓輔選手62位/自己新記録、高橋達也選手119位、吉武佑真選手126位
1月 1日	第62回全日本実業団対抗駅伝競走大会 (ニューイヤー駅伝)	チーム9位 ※()内は区間順位 1区:古賀淳紫選手(15位)、2区:アッパйна テグ選手(6位)、3区:佐護啓輔選手(29位)、 4区:高橋尚弥選手(9位)、5区:中本健太郎選手(6位)、6区:黒木文太選手(7位)、 7区:久保田大貴選手(23位)